

機関番号：32635

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2010

課題番号：20242002

研究課題名（和文） 大学における宗教文化教育の実質化を図るシステム構築

研究課題名（英文） Construction of a Quality-Assuring System for Higher Education about Religious Culture

研究代表者

星野 英紀 (HOSHINO EIKI)

大正大学・文学部・教授

研究者番号：00054669

研究成果の概要（和文）：本研究は、(1)大学における宗教文化教育を実質化するため、情報収集および各種調査を行い、研究会を重ねて、具体的な体制を確立すること、(2)宗教文化士の養成を含む教育方法について、参加大学が利用できる具体的なシステム形成を行うこと、の2つを達成することを目指した。

研究グループに分かれ、大学における宗教文化教育の実態調査 ((1) - ①)、「宗教文化士」という資格に対する学生たちや一般社会のニーズ調査 ((1) - ②)、大学における宗教文化教育の実質化のための具体的な体制の確立（「宗教文化士」資格の創設；(1) - ③）、情報時代の特質を活かしたオンライン上での教材の共同利用の具体的なシステム構築(2)の4つをおこなった。

また、これらの調査・研究結果を広く社会に公開するために、ニュースレターを1年に4回の割合で発行し、さらに国際シンポジウムや講演会などを年に数回開催した。

研究成果の概要（英文）：This research project aimed to establish a quality-assuring system for higher education in the field of religious studies (the term “education about religious culture” has been coined to name religious studies-based education as distinguished from theology-based education). In particular, it planned, on the one hand, to develop an inter-college evaluation system (“shukyo-bunkashi” system) based upon provisional, subject benchmark standards. On the other hand, it attempted to build a clearinghouse for college teachers in religious studies programs, which provides them with practical teaching methods and materials.

The project was carried out by seven working groups, each of which was comprised of the leading members of religious studies programs from more than twenty universities, including both national and private. Its major achievements are: a fact-finding survey of education about religious culture in undergraduate curricula; needs analyses focusing on students’ and corporate expectations for a “shukyo-bunkashi”, a qualified specialist in religious culture; the foundation of the inter-college evaluation system of “shukyo-bunkashi”; the launching of an on-line clearinghouse for teaching materials.

In order to make the results publicly accessible, the project has issued quarterly newsletters as well as held several international symposia, lectures and workshops.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	14,600,000	4,380,000	18,980,000
2009年度	11,200,000	3,360,000	14,560,000
2010年度	10,100,000	3,030,000	13,130,000
年度			
年度			
総計	35,900,000	10,770,000	46,670,000

研究分野：宗教学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：宗教文化・宗教教育・宗教学・教育学・高等教育

1. 研究開始当初の背景

宗教文化教育の実質化は、グローバル化が進行し、高度情報化社会を迎えた日本においては、喫緊の課題である。多くの日本人が国外に出て生活するようになり、他方多くの外国人が日本で生活するようになってきている。こうした状況は今後ますます深まると予測され、相互の文化理解は非常に重要な課題となってくる。その中で宗教が占める比重は小さいものではない。宗教学を学ぶ学生のみならず、広く学生全般に自国及び他国の宗教文化についての素養を深めるための有効な体制を、大学教員の幅広い協力によって築くことが求められる。

宗教文化教育は、内容的には自国及び他国の宗教文化についての素養を深めていくことが中心的内容となる。さらにその実質化という課題は、宗教文化教育が社会的に評価されるための仕組みを作りあげることによって達成されるが、そのためには、資料の収集、実態調査の遂行によって現状を的確に把握することと、「宗教文化士」という資格に対する学生たちや一般社会のニーズについて調べながら、必要な教材、適切な教育方法等について研究することが必要である。

このような研究の遂行は、単独の大学・研究機関ではなかなか困難であり、複数の学会組織を背景に、多くの大学に属する多様な視点をもつ研究者が協力することによって、はじめて明確な成果が見込まれる。

2. 研究の目的

本研究の目的は大きくわけて以下の二つである。

(1) 大学における宗教文化教育を実質化するために、基本的な情報を収集し、各種の必要な調査を行い、研究会を重ねて、具体的な体制を確立する。

(2) 宗教文化士の養成を含む教育方法について、この試みに加わった各大学が利用できるようなシステム形成を具体的に行っていく。

3. 研究の方法

全体をグループ分けし、それぞれのグループが連携しあいながら以下の研究を進めた。

(1) - ①: 大学における宗教文化教育の実態調査

(1) - ②: 「宗教文化士」という資格に対する学生たちや一般社会のニーズ調査

(1) - ③: 大学における宗教文化教育の実質化のための具体的体制の確立（「宗教文化士」

資格の創設)

(2): 情報時代の特質を活かした、教材のオンラインでの共同利用形態の具体的構築

また、これらの調査・研究結果を広く社会に公開するために、1年に4回の割合でニューズレターを発行し、さらに国際ワークショップや講演会などを折に触れ開催した。

4. 研究成果

上述（3. 研究の方法）の区分に従い、以下に研究成果を述べる。

(1) - ①: 大学における宗教文化教育の実態調査

2002年6月から7月にかけて、本科研メンバーの所属大学ならびに宗教文化士パイロット校を対象にアンケートを実施した。内容は、各大学において開講されている、宗教学関係の授業の種類と数、過去10年間のカリキュラムや授業方法の変化、現在直面している教育上の問題を尋ねるものであった。その結果として明らかになったことを、主な点のみ挙げるならば以下の通りである。

A 開講されている関連授業の数と種類

・宗教学・宗教文化教育の授業の開講数は、大学により違いが大きく、また宗教系大学の場合は、その大学の設立宗教・宗派を扱う授業が、他の宗教を扱う授業よりも多いという傾向は顕著である。さらに、カリキュラムのスリム化（科目数削減）を行なっている大学では、宗教文化教育関係の授業を増やすことには限界がある。これらを鑑みると、宗教文化士制度への加入を拡大するためには、単位互換制度等の導入・活用は不可欠である。同一大学内で所属学部・学科を異にする教員同士の連携促進も課題である。

・パイロット校検討側では、神学的・宗派教育的な授業は、宗教文化士の科目として認定されるのか、どの程度まで宗派色が許容されるのかが知りたいことのひとつである。

B カリキュラム

・教育内容における近年の変化とその原因
・ヴィジュアル教材を多用するなど、学力の二極化に対する対策・興味喚起の策がとられている。

・現代社会の宗教のあり方や、ニュース等に焦点を当てた、社会的有用性の高い授業が増

えている。

・神学・教学系（聖職者養成用）カリキュラムにおいて、増加する一般学生のために、一般的な関心に合った授業を増やしている。また、聖職を目指す学生に対しても、宗教文化教育の授業を増やしている。

・全体として、大学によって差はあるが、宗教文化教育は徐々に盛んになってきていることが確認できた。カリキュラムという点からみた原因として、大学院に進学しない学生や聖職志望ではない学生が宗教学科や神学科に入学する場合が増えていることが挙げられる。そのような学生に社会人教養としての宗教学の授業を提供する必要から、宗教文化教育が広がっているのである。

C 宗教学教育・宗教文化教育の当面の課題

・宗教学教育・宗教文化教育の学習成果の明示化と、その成果をどう評価するか、またどうキャリア意識に結びつけるかが、今、現場で検討されており、それらに宗教文化士制度をどう絡ませられるかが課題である。

すなわち「宗教文化士の資格をとると、社会に出てから何ができるのか」を、「国際舞台で知識が生かせる」といった程度の漠然とした説明ではなく、学生が具体的にイメージできるよう明示化する必要がある。また、大学4年間の学習成果の評価を、数値化することが今後求められていきそうだが、それに宗教文化士制度を上手に組み込みたいという要望がある。

・広く基礎的な宗教の知識を身につけさせたい宗教文化士用の教育と、他の能力・知識（ジェネリックスキルの場合も専門知識・技能の場合もある）を身につけさせたい教育とのジレンマの解消も課題である。あるいは2タイプの学生がいる（専門／一般の違いや、学力差）場合の焦点の合わせ方が模索されている。

(1) - ②：「宗教文化士」という資格に対する学生たちや一般社会のニーズ調査

・宗教文化教育に関する学生の意識調査

平成20年10月～12月に全国38の大学で5,005名の学生を対象としてアンケート調査が実施された。その結果は「宗教文化教育に関する学生の意識調査報告書」として、2009年2月に刊行された。

この調査は、「宗教文化士（仮称：当時）」という資格に対して、現時点で学生にどの程度のニーズがあるかを調べるのが主目的であった。同時に宗教文化教育に関連するどのような講義内容に関心があるか、どのような学びが必要と感じられているかなども調べた。ポイントとなる点を示すと、この研究が目指している「宗教文化士」の資格について

は、過半数の回答者が「とりたい」もしくは「条件によってはとりたい」と答えている（グラフ1を参照）。

調査実施メンバーによる当初の予想を上回るものとなった。理系の学部の学生においてさえ、肯定的な受け止め方は3割を越している。学生の間には、こうした資格に対する一定の潜在的ニーズがあると言える。

また、どのような講義を履修したいかでは、「世界の神話」、「宗教が文学・音楽・美術・建築・映画などの文化に与えた影響」が上位となり、半数以上の学生が選んだ。逆に比較的少なかったのは「ムスリム（イスラム教徒）の戒律と実生活」、「暮らしの中の仏教」、「新宗教と呼ばれている近代以降の新しい宗教の活動」などで、3割を切った（グラフ2を参照）。

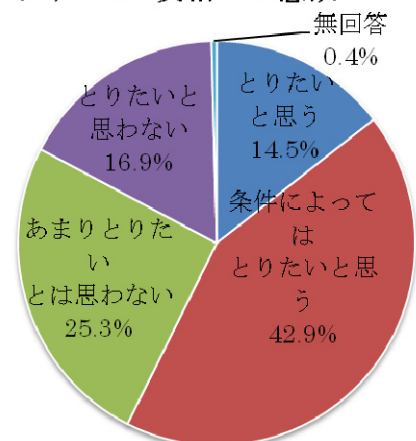
テーマごとの履修意欲の差は一定程度あるが、宗教文化教育に関係する講義を履修したいという希望は、平均して4割を超えている。今後宗教文化教育のシステム構築を具体化する上で、非常に参考になる結果であった。

なお、アンケートを実施した大学は次の通りである。（五十音順）

愛知学院大学、青山学院女子短期大学、大阪国際大学、学習院大学、鹿児島大学、関西学院大学、関西大学、神田外語大学、関東学院大学、京都学園大学、京都女子大学、慶應義塾大学、神戸大学、國學院大学、国際基督教大学、駒澤大学、淑徳大学、上越教育大学、白百合女子大学、聖心女子大学、創価大学、

大正大学、玉川大学、筑波大学、天理大学、東海大学、東京外国語大学、東京理科大学、東洋英和女学院大学、名古屋工業大学、南山

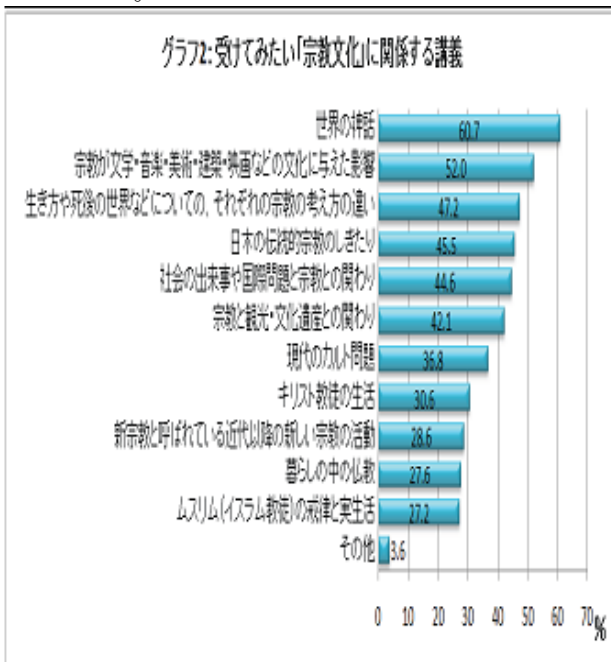
グラフ1：資格への意欲



大学、新潟産業大学、藤女子大学、北海道大学、立教大学、立正大学、龍谷大学、早稲田大学

(1) - ③: 大学における宗教文化教育の実質化のための具体的体制の確立

「宗教文化士」の到達目標を以下の三点 (① 教えや儀礼、神話を含む宗教文化の意味について理解ができる。②キリスト教、イスラーム、ヒンドゥー教、仏教、神道などの宗教伝統の基本的な事実について、一定の知識を得ることができる。③現代人が直面する諸問題における宗教の役割について、公共の場で通用する見方ができる。) に定めることを始め、資格認定要件などを具体的に制定した。(詳しい内容については次の HP <http://www.cerc.jp/>を参照)。また、認定機関として宗教文化教育推進センターを設立した。



(2): 情報時代の特質を活かした、教材のオンラインでの共同利用形態の具体的構築

オンライン教材は上述の宗教文化教育推進センターHP (<http://www.cerc.jp/>) で公開されている。具体的には「宗教文化を学ぶための基本書案内」「宗教文化に関する基本用語集」「宗教文化に関する映画」「宗教文化に関する世界遺産」「参考になる美術館」「参考になる博物館」などのデータベースが用意されている。

[ニュースレター]

ニュースレターは全部で 10 号まで発行。そのすべてが以下で読むことが可能である。

<http://www2.kokugakuin.ac.jp/shukyobunka/newsletter.html>

[開催した講演会等]

1. 国際研究フォーラム「ウェブ経由の神

道・日本宗教—インターネット時代の宗教文化教育のゆくえ—

日時: 2008 年 10 月 26 日 (日)

2. 国際シンポジウム「Education on Religious Cultures in University Curricula (大学における宗教文化教育)」

日時: 2009 年 8 月 10 日 (月)

3. 国際研究フォーラム「映画の中の宗教文化」

日時: 2009 年 9 月 20 日 (日)

4. 公開シンポジウム「宗教文化教育に求められるもの—「宗教文化士」のスタートに向けて」

日時: 2010 年 1 月 24 日 (日)

5. 公開ワークショップ「宗教学教育の現状と課題—宗教文化士制度発足に向けて—」

日時: 2010 年 9 月 2 日 (木)

6. 公開講演会「現代イスラームと日本社会」

日時: 2010 年 10 月 2 日 (土)

7. 国際研究フォーラム「イスラームと向かい合う日本社会」

日時: 2010 年 10 月 3 日 (日)

8. 公開講演会「観光と宗教」

日時: 2010 年 12 月 11 日 (土)

9. ワークショップ「宗教文化教育の教材を探る」

日時: 2010 年 12 月 11 日 (土)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

① Satoko Fujiwara, "On Qualifying Religious Literacy: Recent Debates on Higher Education and Religious Studies in Japan," *Teaching Theology & Religion*, 13/3, 査読有, 2010, pp. 223-236

② 渡辺学「宗教系大学における宗教教育の教材選択の問題点」『宗教研究』査読有、第 82 巻第 4 輯 359 号、2009、101-102

③ 井上順孝、Religious education in contemporary Japan, *Religion Compass*, 査読有、3/4, 2009, pp. 580-594

④ 藤原聖子「宗教文化士と学士力認定制度が宗教学会になげかけるもの—評価・アカウンタビリティの要請とその危うさ—」『宗教研究』査読有、第 82 巻第 4 輯 359 号、2009、58-82

⑤ 井上順孝「学生における宗教文化教育への関心について—2008 年度アンケート調査の分析から—」『國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報第 2 号』査読無、2009、13-39

⑥ 土屋博「日本における宗教教育の公共性—『宗教的情操』をめぐる—」『学園論集』査読無、第 138 号、2008、1-15

⑦ 平藤喜久子 "A New Perspective on

Japanese Myth Education”, 『國學院大學研究開発推進機構紀要』査読無、第2号、2008、65-78

〔学会発表〕(計5件)

①藤原聖子” What School Textbooks Tell about Religion Teaching Practiced Around the World: A Comparative Study of Religious Education in the Public Sphere”, American Academy of Religion, 2009. 11. 7, Montreal.

②井上順孝「宗教文化教育と宗教情操教育の相違点」日本宗教学会、2009年9月13日、京都大学

③藤原聖子「海外の公教育における宗教教育の現状と日本への示唆」日本宗教学、2009年9月13日、京都大学。

④平藤喜久子「宗教文化教育の資源としての神話」、「宗教と社会」学会、2009年6月7日創価大学。

⑤井上順孝「情報時代の宗教文化教育の教材」、日本宗教学会、2008年9月14日、筑波大学。

〔図書〕(計1件)

井上順孝(編著)『映画で学ぶ現代宗教』弘文堂、2009、191

〔その他〕

ホームページ等

- ・ <http://www2.kokugakuin.ac.jp/shu/kyobunka/index.html>
- ・ <http://www.cerc.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

星野 英紀 (HOSHINO EIKI)
大正大学・文学部・教授
研究者番号：00054669

(2) 研究分担者

- ・ 稲場 圭信 (INABA KEISHIN)
大阪大学・人間科学研究科・准教授
研究者番号：30362750
- ・ 井上 順孝 (INOUE NOBUTAKA)
國學院大學・神道文化学部・教授
研究者番号：80011386
- ・ 黒崎 浩行 (KUROSAKI HIROYUKI)
國學院大學・神道文化学部・准教授
研究者番号：70296789
- ・ 中牧 弘允 (NAKAMAKI HIROMASA)
国立民族学博物館・民族文化研究部・教授
研究者番号：90113430 (2009・2010)
- ・ 平藤 喜久子 (HIRAFUJI KIKUKO)
國學院大學・研究開発機構・准教授

研究者番号：50384003

- ・ 藤原 聖子 (FUJIWARA SATOKO)
大正大学・文学部・教授
研究者番号：10338593
- ・ 三木 英 (MIKI HIZURU)
大阪国際大学・経営情報学部・教授
研究者番号：60199974
- ・ 村上 興匡 (MURAKAMI KOUKYO)
大正大学・人間学部・准教授
研究者番号：40292742

(3) 連携研究者

- ・ 磯岡 哲也 (ISOOKA TETSUYA)
淑徳大学・総合福祉学部・教授
研究者番号：90201920
- ・ 岩井 洋 (IWAI HIROSHI)
関西国際大学・人間科学部・教授
研究者番号：30269956
- ・ 大村 英昭 (OOMURA EISHO)
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号：30047485
- ・ 久保田 浩 (KUBOTA HIROSHI)
立教大学・文学部・准教授
研究者番号：60434205
- ・ 櫻井 義秀 (SAKURAI YOSHIHIDE)
北海道大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：50196135
- ・ 佐々木 裕子 (SASAKI YUKO)
白百合女子大学・文学部・准教授
研究者番号：60286888
- ・ 澤井 義次 (SAWAI YOSHITUGU)
天理大学・人間学部・教授
研究者番号：30178826
- ・ 塩尻 和子 (SHIOJIRI KAZUKO)
筑波大学・人文社会科学研究科・教授
研究者番号：40312780
- ・ スワンソン・ポール (SWANSON PAUL)
南山大学・人文学部・教授
研究者番号：20229272
- ・ 高田 信良 (TAKADA NOBUYOSHI)
龍谷大学・文学部・教授
研究者番号：60148393
- ・ 田島 忠篤 (TAJIMA TADAATSU)
天使大学・看護栄養学部・教授
研究者番号：40179693
- ・ 田中 雅一 (TANAKA MASAKAZU)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号：00188335
- ・ 土屋 博 (TSUTIYA HIROSHI)
北海学園大学・人文学部・教授
研究者番号：30000607
- ・ 鶴岡 賀雄 (TSURUOKA NOBUO)
東京大学・人文社会系研究科・教授
研究者番号：60180056
- ・ 月本 昭男 (TSUKIMOTO AKIO)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：10147928

- 中牧 弘允 (NAKAMAKI HIROMASA)
国立民族学博物館・民族文化研究部・教授
研究者番号：90113430 (2008)
- 林 淳 (HAYASHI ATSUSHI)
愛知学院大学・人間学部・教授
研究者番号：90156456
- 矢野 秀武 (YANO HIDETAKE)
駒澤大学・総合教育研究部・講師
研究者番号：20422347
- 山中 弘 (YAMANAKA HIROSHI)
筑波大学・人文社会科学研究科・教授
研究者番号：40201842
- 弓山 達也 (YUMIYAMA TATSUYA)
大正大学・人文学部・教授
研究者番号：40311998
- 渡辺 学 (WATANABE MANABU)
南山大学・人文学部・教授
研究者番号：20192817